

地鎮祭詞

此の所に斎竹さし立て標縄引き延之神籠立てて
招ぎ奉り令坐奉る掛け巻くも畏き親神天理王命の
御前に恐み恐みも白さく

親神の広き厚き御恵みを喜び奉り辱けなみ奉り
家はも早くよりこれのお道に引き寄せら
れ生業の道の傍ら人救いの心を碎きつつ朝な夕な
明るく暮らされしが この度長年のつとめ稔りて
これらの 都 区 番地なる土地に

造

葺

建

棟

なる住居を設け奉り 神実様を移し鎮め奉り土地
所の陽気ぐらしの雛形たらんと今し大地の高き低
きを曳き平し御柱が根の礎を底つ 石根に築き固
めんとして今日の生日の足日に地鎮の御祭仕え奉
らくと 御酒御食海川山野の味物を捧げ奉りて拜
み奉らくを諾い聞し食して これより後も家族親
族一同身も心も健やかに起き伏し給わむ事はしも
とより 高く尊き神名がこれの周辺に流るると共
に底つ石根の極み下つ綱根の限り 波布虫の禍無
く由留岐害うことなく 千代万代に堅磐に常磐に
守り幸え給えと恐み恐み乞い祈み奉らくと白す